

科目名	看護科学特別実習 Seminar in Nursing Science
授業形態	実習
標準履修年次	1・2年次
実施学期・曜時間等	通年 応談
単位数	2単位
担当教員名	看護科学専攻教務委員長 研究指導教員
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	なし
オフィスアワー等	事前に担当教員の予定を確認の上で訪室すること
授業の到達目標 (学習成果)	(1) 看護の高度専門職業人としての課題の一つを明確にし、臨地でその課題に取り組むことができる。 (2) 上記の取り組みを通して看護科学特別研究につながるような知的探求が行える。
他の授業科目との関連	専門基礎科目、専門科目のすべて
履修条件	次のいずれかを満たす者 看護師の有資格者で3年以上の臨床経験がある 専門看護師養成課程を選択している 助産師養成課程を選択している
授業概要	看護学における高度専門職業人になるための自分自身の課題を明確にし、自己成長するために、看護職としての自分自身の現状をアセスメントし、個人の現状に合致した場において課題を設定し研究的視点を持ちながら実践する。さらにそこで得られた知見は、臨地における実証的研究として特別研究につなげられるように探求させる。
キーワード	高度看護実践、実習、研究的視点
授業計画	看護の高度専門職業人としての課題を明確にし、各自の看護実践経験を生かしながら臨地の現場での実習に取り組む。 専門看護師養成課程を選択する者については、別途、専門看護師(CNS)の領域ごとにCNS役割実習としてシラバスを設定しているの、本シラバスと合わせて確認すること。 学生は自らの課題を設定し実習計画を立てる。 ・計画書には課題を選択した動機、背景、意義を明記する。 課題及び実習計画について、担当教員と妥当性を検討する。 課題から実習施設を決定する。 ・学生が、課題および実習計画を施設側の実習担当者に示し承諾を得る。 ・実習期間は、臨地での実習があわせて10日以上となるように形態を目的に合わせて計画する。 ・患者を受け持つ場合は複数担当して事例を検討できることが望ましい。 ・学生と実習施設との間で、書面により、基本となる実習内容、条件等を記載した確認書を交わすことが望ましい。 実習前に、看護科学特別実習申請書を専攻事務に提出する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	自ら設定した課題が看護科学特別研究に繋がるような探索的な実習を行うために、十分な予習・復習を行うこと。
成績評価方法	3分の2以上の出席を単位取得の要件とし、最終評価がC以上をもって単位を認定する。  <評価方法と評価配分> 実習施設による評価と実習報告書の内容を総合的に評価する。  <評価基準> 評価の視点は以下のとおりである。 1. 自らの課題を設定できる。 2. 課題に応じた計画を立案できる。 3. 計画に基づき主体的に実践できる。 4. 計画に基づき実践したことを評価し、自らの今後の課題を明らかにできる。  上記に対応した評価基準は以下のとおりである。 A+: 上記1～4を自身で達成できる。 A: 上記1～4をほぼ自身で達成できる。 B: 上記1～4を教員の指導を受けながら達成できる。 C: 上記1～4を教員の指導を受けながら概ね達成できる。 D: 上記1～4を教員の指導のもとでも達成できない。
教材・参考文献・配布資料等	必要があれば各担当教員が別途提示する。
その他(受講生にのぞむことや 受講上の注意点等)	遅刻、途中退出、やむを得ず欠席する場合の扱いについては、受講生の状況を鑑みて各担当教員が決定する。